核のない平和な世界を

広島の平和記念式典に荏原さんを派遣

広島市上空に立ち昇る原子雲

四十一回目の原爆忌を迎えた八月六日に広島、そして九日には長崎で平和記念式典が行われ、原爆犠牲者を慰霊するとともに、核兵器の廃絶と恒久平和の実現を世界中に訴えました。

当市でも、昨年の市議会九月定例会で「非核平和都市宣言」を行い、広島への平和研修派遣事業を実施しました。非核平和都市として、一層の非核平和意識の高揚を図ることを目的に、市民代表一名を派遣するもので、派遣されたのは、昭和六十一年度の成人式実行委員会副委員長を務められた荏原睦さん（南町、二十一歳、新潟県立女子短大二年）です。

荏原さんは、一泊二日の日程で広島の平和記念式典に参列されたほか、平和記念館や平和記念資料館などを見学されました。その報告文を荏原さんから寄稿していただきましたので、五月に紹介します。

＊　＊　＊

年々被爆者の高齢化が進み、被爆体験の風化が懸念されていますが、すべてを破壊しつくす核兵器と人類は共存できないことを肝に銘じ、一日も早く核兵器が廃絶されるよう、平和を願う人たちとの連携を強めていきます。

なお、広島の平和記念式典会場から世界中に向けて呼びかけられた「平和宣言」を左に掲載しました。

平和宣言

平和、それはヒロシマの悲願である。

41年前のあの日、広島は灼熱の閃光と地鳴を揺が、轟音とともに壊滅した。この世ならぬ凄惨な生き地獄は、まさに、阿鼻叫喚の巷であった。

その廃墟の中から起ち上がった広島は、再び過ちを繰り返させないため、ひたすら核兵器廃絶と世界の恒久平和を訴え続けてきた。

昨年、8月6日以降、ソ連が核実験を停止し、また、米ソ首脳会談が開催され、核軍縮の前途に曙光を見い出し得たかに思われた。しかし、核軍縮交渉は遅々として進まず、核兵器は質的・量的に増強され、核戦略は宇宙空間にまで拡大されようとしている。

この時起こったソ連のチェルノブイリ原発事故は、人びとを放射能の恐怖に陥れ、安全管理の国際協力に大きな課題を残すとともに、一国の事故が他国にも禍いを及ぼすことを知らしめ、世界は核時代の現実に怯えている。

加えて、局地戦争やテロ行為も多発し、飢餓、難民、人権抑圧の諸問題もきわめて深刻である。

不幸にして凶弾に倒れた故パルメ・スウェーデン首相は、広島で階段の石に焼きつけられた人影を見て、「核戦争が起こればこの人影すら残らないだろう」と、人類の終末を予見した。

ノーベル平和賞を受賞した「核戦争防止国際医師会議」のメンバーが、本年6月広島を訪れ、被爆の実相に驚愕し、核実験即時停止を強く訴えた。

本日、世界各地でヒロシマ・デーが開催され、メキシコでは、非同盟6カ国首脳が相集い、核軍縮を世界に訴える。

いまや、核兵器廃絶と平和を願うヒロシマの声は世界の世論である。

逡巡は許されない。

核保有国は、直ちに核実験を永久に停止すべきである。人類生存の命運を握る米ソ両国は、世界最初の被爆地広島において首脳会談を開催し、核軍縮への具体的な方策を明示すべきである。

国連事務総長は、米ソ両首脳の広島訪問を積極的に働きかけるとともに、第3回軍縮特別総会を速やかに開催すべきである。

日本政府は、これらの実現に努め、憲法の平和理念に基づき、国是である非核三原則を厳守し、核兵器廃絶への先導的役割を果たすべきである。

時恰も国際平和年。

ヒロシマは、ここに、「平和サミット」を開催し、核兵器廃絶と恒久平和実現への国際世論を喚起する。

再びヒロシマは訴える。

いまこそ、世界のすべての都市と都市、市民と市民が、国境を越え、思想、信条の違いを超えて、連帯の輪をひろげ、絆をより強固にすることを。

本日、ここに、平和記念式典を迎えるに当たり、われわれは、原爆犠牲者の御霊（みたま）に哀悼の誠を捧げ、国家補償の理念に立った被爆者援護対策の確立を強く要請するとともに、平和への決意を新たにするものである。

昭和61年8月6日

広島市長　荒木　武

お買物、ご用命は市内で

贈答品・美術品
中野せともの店
本町4丁目　☎22-1086

荻川テニスクラブ
会員募集中
アンツーカーコート　2面
夜間照明，シャワー，ロッカー
駐車場完備
新津市福島195番地　荻川テニスクラブ
☎22-9455
荻川駅　至新津　当クラブ

平和への祈りを新たに

南町　荏原　睦

広島と長崎に原爆が落とされて四十一年の月日が流れた。やっと四十一年と思える一方で、もう四十一年にもなったとも思える。私にとって戦争や原爆は、教科書に載っている小説のようなもので、現実感は、ほとんどないと言ってよいだろう。戦争がもたらした悲劇は非常に大きく、たくさん伝えられてはいるが、伝えられているだけで、肌に触れるようには感じられない。

遺族など約5万人が参列した原爆死没者慰霊式・平和祈念式

新津市が非核平和都市宣言を行い、私は、その一環として広島の平和記念式典に参加させていただけることになった。ただの観光とは違い、何かを感じてこなければならないという多少の心配もあったが、わりと楽な気持ちで参加することができ、私にとっては貴重な体験になった。

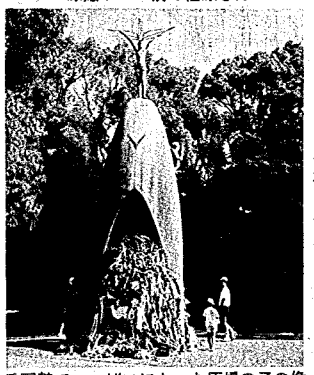
優しく迎えてくれた原爆ドーム

八月五日の夕方、広島に到着し、散歩がてら平和公園に出かけた。広島は木々が多く、緑の美しい街で、公園わきを流れる川には魚の泳ぐ姿も見える。広島は、原爆とは似つかわしくないように思えた。

原爆ドーム前の荏原さん

公園までの道筋には、六日に行われるさまざまな催しの準備が行われており、公園の対岸にあたる場所に私が一番見たいと思っていた原爆ドームが、緑の中に建っていた。写真やテレビで見るより小さめで、中はがらんどうになっていて、黒く汚れたレンガが、がらがらと地面に崩れ落ちていた。原爆ドームを見るとき、私は胸がつまるような思いがするだろうと想像していたが、実際に見る原爆ドームは、確かに姿は悲惨であるが、木々に囲まれて優しい様子だった。むしろ、心がなごむような気さえした。

原爆ドームから土手づたいに歩くと、平和を願う小さな碑がいくつか建てられており、そこにはお花や千羽鶴が供えられていた。このような小さな碑は、八十以上もあるということだ。



千羽鶴でいっぱいになった原爆の子の像

公園では、式典のためのいすが一万席用意され、七時を回っていたにもかかわらず、たくさんの人が準備のために働いていた。そんな中を、平和を祈る人たちが次々に訪れ、慰霊碑の前に祈りをささげていた。

黙とうをし、心から平和を願う

翌六日の朝、私が公園に着いたのは七時ごろだったが、すでにたくさんの人たちが慰霊碑にお花を供えていた。地元のボーイスカウトの少年たちがお花を配っていたので、私もそのお花を一輪供えてお祈りをした。

式典は八時ちょうどに始まり、広島県の関係者や総理大臣などによる献花や、平和を願うあいさつなどが行われ、九時ごろに終わった。席が遠かった私には、まるでテレビを見ているようであったが、八時十五分から一分間の黙とうをしたときは、私も心から平和を願わずにはいられなかった。あの場所で、たくさんの人たちと黙とうをすることによって、本当に深く感動してしまった。そんな自分に、少し驚いている。

また、式典に参列したとき、私の隣に老夫妻がおられたので、少しお話をした。そのとき、奥さんが、「このおじいさんが被爆しているんですよ」と何げなくおっしゃった。口調は普通だったけれど、私は何とも言えない思いが込みあげてくるのを感じた。

勇気を持って平和を守ろう

今のこの平和は、たくさんの人たちの犠牲によって生まれている。そして、私たちは、戦争が無益で、無意味で、悲しいものであることを知っている。平和を守り、未来へつなげていくことは、簡単ではないだろうが、私たちは勇気を持って平和を守らなければならないと強く思う。

お買物、ご用命は市内で

新装開店お知らせ　一日の疲れをいやす、カス風呂
ショールーム　越後天然ガス
展示コーナー
・各種ガス器具
・台所・浴室・洗面所
水洗トイレ等の
商品・機器の展示
申込受付
・ガス器具
・ガス工事
・水道工事
・故障修理
・増改築工事
支払受付
・ガス料金
・ガス器具代
・ガス工事代
・プロパンガス代
・住宅設備工事代
至新潟　至新発田　新津駅　大橋　ロイヤルコーナー　能代川　至加茂　ショールーム　至五泉
新津市本町2丁目
☎22-9651
☎24-2150